



中西 顕治

## 新型コロナウイルス感染症対策

### 介護事業所への支援は

**問** 介護事業所で独自にPCR検査を行う場合に掛増し経費で対応するとされているが、実績はあるか。

**答** 現在、PCR検査を事業所独自で行う費用助成を求める事例はない。府の行う高齢者施設の定期PCR検査と、スマホ検査センターにおける検査で一定事業所の体制が整っていると推測するが、事業所がそれに加えて独自にPCR検査をするというような場合に必要経費についても、支援の対象とすることができ。事業所から申出があれば相談に乗り、支援を行っていく。



**問** 介護事業所でコロナ対策を含む事業継続計画を策定しなければならなくなりましたが、どのような支援ができるか。

**答** 4月に制度改正がありコロナ対策、災害に対するBCP計画を策定しなければいけないという法改正がされた。

特に規模の小さい事業所では策定が難しいことから、国が示すガイドラインや府のひな形を用いて作成支援を行っていきたい。

事業所内でコロナ感染

が発生した場合の対応等、事業所間の連携が必要となる場合は、必要に応じて地域包括支援センターが調整や連携も行っている。

各介護事業所と連携を取り、高齢者の日常生活を維持できるように今後も努めていきたい。



**問** 介護保険事業所連絡会の開催状況は。

**答** 介護保険事業所連絡会は4月以降中止が続いている状況である。町内事業所の意向を踏まえながら、開催できるように働きかけをしていきたい。

## 一般質問



太田 祐介

### 能勢観光物産センターの交通対策

**問** 5月の連休、盆休み等の混雑状況と対応を問う。

**答** 5月は臨時駐車場を開設した。4日間の開設で延べ246台の利用があった。

最大の渋滞は片山口交差点付近までの約700メートルとなった。7月から8月の連休では天候の影響で利用が少なく、渋滞もなかった。

**問** 指定管理をしている施設に対して、行政が渋滞緩和などの指導を行っている理由はなにか。

**答** 基本的には173号線の渋滞緩和を目的としている。地域振興課で対策を考えて助言している。

- 一、能勢観光物産センターの交通対策
- 二、町内の山林・農地などの開発
- 三、教育現場のタブレット端末の活用方法

**問** 混雑緩和にむけた今後の取組みを問う。

**答** 迂回の誘導看板については、池田土木事務所と連携をとり、物産センターからも案内を発信する。

**問** 町内の山林・農地などの開発

**問** 管内での違法な土砂搬入などはないか。

**答** 違法な土砂搬入は7件あり、そのうち5件が廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反であり、

関する法律違反であり、大阪府の産業廃棄物指導課で指導されている。

**問** 太陽光発電施設の設置条例制定の予定を問う。

**答** 近隣市町で条例を定めているところができており、大阪府も適正な設置にむけた取組みを促している。

再生エネルギー導入支援事業の中で合わせて検討していく。

**問** 教育現場のタブレット端末の活用方法

**答** 利用しているソフトウェアについて問う。

**問** 児童生徒用の端末にはSKYMENU（授業支援）、eライブラリ（ドリルなどの演習出題）を導入している。

教員用の端末にはThinkBoard（板書をデジタル化するコンテンツ作成支援ソフト）を導入している。

andT（校務支援システム）にて情報の一元化、教員の負担軽減、業務の効率化を図っている。